

理学部 学部長を拝命して



新 長 兼 理 学 部 長 菅 原 正 博



理 学 部 長 菅 原 正 博

今春より理学部長を仰せ付けられ、その大任を果たしうるやまことに心もとない限りながら、20年あまり御世話になってきた理学部の皆さんの総意を代表させていただいて、課せられた務めを全うしうるよう、私なりに真面目に努め、最後の御礼奉公をさせていただくより他に術はない、と覚悟しております。

最後と申しましたが、多くの先達が学び、数多くの卒業生が巣立って行ったこの東千田の地で、そして原爆の被災にも耐えて60年を経たこの理学部1号館の建物で、我々が自然の理を学び、究め、教えるのも今しばしです。

そして、今秋の教育学部に続いて、理学部も東広島新キャンパスへの移転を、来秋の予定が半年おくれる場合を想定しているものの、また来春予定の図書館の様子等が気がかりなものの、やはり確実に実施しなければなりません。そのために、我々理学部の教職員が一丸となって当たらなければならないことは論を持ちませんが、全学の各部局の皆さんにも引続いたご配慮とご協力を心よりお願い申し上げます。

本学の統合移転は、先陣された工学部から昨春の生物生産学部による再開まで6年を要し、その道の険しさを感じざるをえませんが、当面している我々にとっては申すまでもなく、さらにこの3～5年後に予定された学部のためにも、やはり統合移転の順調な実施と早期完了を願う気持ちでいっぱいです。それと同時に、今までにも増して、活気ある魅力にあふれた研究教育

の場とすることができるよう、一層の充実と飛躍へ向けた全学の着実な前進を、と願うものです。

とは申せ、懸案にかまけるのが関の山で、思い巡らす余裕は全く持てそうにありません。自然を直視して、その普遍性を探し続けている理学の中にあっても、極端なまでに論理的な美しさを求め続けているだろうことを、数学という学問に好ましい一面と感じながら、ささやかに数学を学んできたつもりですが、ようやく齢のみを重ねてしまった感が深く、思い切った試行錯誤のできる若さが羨ましい限りです。

初等幾何に試行錯誤の楽しさを教えることがどうしてできないのか、と申すのは全くの練り言でしょう。まして、鶴亀算の楽しさをより多くの子どもたちに、となると無責任の限りでしょうが、それは、自然に指折り数えてきた子どもたちの素朴な数への認識だけでできる推論の美しい例であり、より容易な解法かもしれない代数の手法に出会うこととなるだろうとき、普遍性の美しさをより美しく感じさせるものとなる、と信じています。もちろん、鶴と亀、それよりましてそれらの足だけ、を実際に区別せずに数えられるはずはないでしょうが、何の意味かははやけてしまった数だけがひとり歩きしていることも多いやに思われてならず、楽しさが苦しさかもしれない現実に、より美しいものを、そして美しさを生みだせるものを、探し求めたいものです。